

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	<u>11</u>
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	<u>2</u>
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	<u>6</u>
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	<u>11</u>
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	<u>30</u>

事業所番号	2572300073
法人名	特定非営利活動法人 NPOワイワイあぼしクラブ
事業所名	グループホーム わいわい
訪問調査日	平成 20 年 10 月 24 日
評価確定日	平成 20 年 11 月 20 日
評価機関名	ナルク滋賀福祉調査センター

○項目番号について
 外部評価は30項目です。
 「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。
 「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。
 番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法
 [取り組みの事実]
 ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。
 [取り組みを期待したい項目]
 確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。
 [取り組みを期待したい内容]
 「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明
 家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
 家族 = 家族に限定しています。
 運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。
 職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。
 チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	2572300073
法人名	特定非営利活動法人 NPOワイワイあぼしクラブ
事業所名	ループホーム わいわい
所在地	滋賀県湖南市石部東丁目5番25号 (電話) 0748-77-5741

評価機関名	NPO法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク滋賀福祉調査センター		
所在地	滋賀県大津市和邇中浜432番地 平和堂和邇店2階		
訪問調査日	平成 20年10月24日	評価確定日	平成20年11月20日

【情報提供票より】(平成 20年 10月 1日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 14年 12月 24日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	16 人	常勤	4 人, 非常勤 12 人, 常勤換算 7.99 人

(2)建物概要

建物構造	木造 造り		
	2階建ての	1階 ~	2階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	53,100 円	その他の経費(月額)	38,400円 円	
敷金	(有) (111,000円 円) 無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円) (無)	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	150 円	昼食	300 円
	夕食	200 円	おやつ	円
	または1日当たり		650 円	

(4)利用者の概要(20年3月1日現在)

利用者人数	9名	男性	1名	女性	8名
要介護1	0名	要介護2	0名		
要介護3	5名	要介護4	2名		
要介護5	2名	要支援2	0名		
年齢	平均 88歳	最低	72歳	最高	95歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	石部医療センター ・ 小川診療所 ・ みねの歯科
---------	--------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

「グループホームわいわい」は野洲川の南側にあり、日当たりのよい丘陵に建てられた木造二階建の家屋である。そこに9名の利用者がのんびりと暮している。利用者の平均年齢が88歳と高齢であると同時に、要介護度が3以上の人がばかりであるが、利用者の満足度は高い。それは職員全員が「これからの人生を住み慣れた土地で、馴染みの人達と、のんびり ゆったりと暮すための支援をする」を理念に取組んでいるからである。日中は9名の利用者に4名の職員が介護し、自立への支援を行っている。医療体制として24時間対応できる看護師がいて、健康管理面で安心できる環境にある。近くには協力医療機関である小川診療所があり、みねの歯科医や眼科医とも連携を密にして受診できるため、利用者と家族は安心して介護を委託できる。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の評価で指摘された「評価の意義の理解と活用」は全職員が参加、改善されている。「水分摂取量の確認」は特定の利用者は確認し、それ以外の方には職員が注意するよう改善されている。「職員の異動に関する影響の配慮」は未改善である。今年の評価で新たに「職員の育成」が加ったので、併せて改善を検討して欲しい。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>全職員は自己評価の目的や重要性を認識しており、今回は全員が自己評価を実施した。そのため全職員は評価の結果を、運営改善に活用する意識が高まった。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>利用者とその家族、自治会役員、民生委員、市の職員、事業所の管理者、職員が出席し隔月に実施している。事業所からは利用者の状況と活動内容の説明があり、家族からは健康面についての質疑応答が行われている。事業所が抱えている運営面の課題などを討議するまでには至っていない。今後は事業所の重要課題を討議し、更に広く参加者の意見を求め、運営の改善に役立つ取り組みをして頂きたい。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>写真入りで分かり易い、手作りのお便り「わいわい」を毎月1日に発行している。同時に看護師から健康面、担当職員からは生活状況を書いた「利用者さんの様子」も作成され、毎月の利用料請求書に同封している。苦情相談窓口として事業所、湖南市介護福祉課の担当者、県国民健康保険団体の連絡先を重要事項説明書に明記している。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>自治会に加入し、草刈などの清掃作業やお年寄りの会合などに参加して、地域の人達に溶け込むよう努力している。利用者の9人中7人が車椅子を利用しているため、清掃作業は主に職員が行っている。地域との交流を図るため、当グループホームの専門性を活かし、認知症の勉強会を開いて、地域の介護相談窓口となるよう取組んでいる。</p>

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「住み慣れた地域で、なじみの人達と普通の暮らしが営める」を基本理念としている。地域で暮らす独自の理念として「家全体・街全体が暮らしの場」と表現し、これを基に生活しているため、利用者には地域の一員となる意識が育っている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者と全職員は理念を、日々の介護活動の中で実践している。全員が多く利用する食堂兼広間には掲示し、共有している。日常生活で起きる様々な事例は、理念に照らし合わせ判断し、対処するよう努めている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入し町内の清掃活動や行事・会合に参加している。今年5月までは中、高校生の勤労体験、ボランティアの受け入れも行っていたが、ターミナルケアを迎えた方がいて、安静にするため現在は中止している。スタッフの専門性を活かし、認知症の勉強会を開くなど、地域の介護相談窓口にしたいと取組んでいる。		近隣の商店や飲食店にも、交流の輪を広げて頂きたい。地域の会合場所として当グループホームを提供するなど、更に積極的に働きかけるよう期待する。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回改善点として上がっていたこの項目の全員参加と、水分摂取量の確認は改善しており、評価の意義は十分理解している。今回はスタッフ全員が自己評価票を作成した。しかし、「職員の異動等による影響の配慮」は改善されていない。		未改善の項目に付いては、取り組み課題のトップに置き、早急に改善するよう期待する。また、新たに自己評価で追加された要改善点についても、衆知を集め改善に取り組んで頂きたい。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者と家族、自治会役員、民生委員、市の職員、事業所の理事長、管理者、職員のメンバーで隔月ごとに開催している。議題は事業所の現状報告や質疑応答程度で、課題を討議し結論を運営に反映するには至っていない。		運営推進会議の行う主旨を理解した上で、自己評価、外部評価から得た課題を公表する。それを議題に討議し、内外から多くの意見や提案を求め、具体的な改善取り組みに結びつく話し合いをして頂きたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	毎月市の関係者に運営面の現状を報告し、介護についても前向きな意見交換を行なっている。市の担当者とは予防接種やノロウイルスの予防について相談し、保健や運営面などで常に強い連携を保っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	日常生活の中で起きた仔細な出来事を、担当職員からお便り「わいわい」で報告している。職員と看護師からは各人の生活状況や健康について記した「利用者さんの様子」を毎月請求書類などと共に届けている。家族の面会時は健康面を中心に日常の様子を詳しく報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者本人と家族が運営推進会議に参加する機会を与えられている。家族の面会時には時間を掛け、意見をよく聞きよう取組んでいる。玄関には意見箱が設置され、相談窓口もある。事業所と市・滋賀県国民健康保険団体の苦情相談窓口を「重要事項説明書」に明記している。		利用者と家族の意見について、本音が出易い雰囲気作りをするよう更に期待したい。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	過去3年間は管理者が毎年変っている。職員の交代も6年弱で11人もあり、利用者や家族がこの点については不安を感じている様子が窺える。	○	運営者、管理者、職員が全員この問題に取り組み、異動や離職者が出る原因と対策を究明し、早急に改善策を講じて頂きたい。業務、休暇、給与などについては根本的な見直しをし、解決策を見出すよう期待する。運営者は管理者や職員の悩みを個々に聞き取り、更に働きやすい環境づくりに努力して欲しい。
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者と職員の交代が多いため、個人別の研修が計画的に行われていない。法人の内部研修は年に数回実施されたり、外部研修に参加するなどはしているが、計画的ではない。	○	職員各個人毎の育成計画を年間計画としてキチッと位置づけ、着実に実施すると共に、資格取得の支援をするなど、運営者は管理者と職員の育成に取り組んで頂きたい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内の同業者や甲賀市域内の同業者とは定期的に交流会や見学会があり、参加している。介護活動に関する情報交換や諸問題の情報交換など行っている。		より大きく交流の輪を広げ、事業所間相互の訪問をすることにより、お互いの啓発を図り、職員のサービス向上に役立てることを期待する。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	事前に何度も利用予定者と家族に事業所へ来て頂き、他の利用者や職員の紹介をし、雰囲気に慣れて頂くよう心掛けている。利用予定者の状態は十分時間を設けて、家族から意向を聞き出している。職員が本人の心身の状況を把握し、本人も納得した上で入居を開始している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は料理の作り方など利用者の得意とする分野で、利用者から教わることもある。利用者と職員は「一緒に考え、共にやる」を基本に暮している。事業所の隅に10坪程の畑があり、トマトや茄子、冬瓜などが植えられている。野菜の育て方は利用者が職員に教え、収穫の際は共に喜び合っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員が利用者の希望を叶えるため、毎日の生活の中から汲み取るようにしている。本人の意向が判らない場合は家族から情報を収集している。以前住んでいた家に帰りたいとか、墓参など希望によっては家族の協力を得て応えている。本人がやりたくないことは無理強いしない。		思いや意向を明確に意思表示する方と苦手な方がいるので、今後も公平に利用者との接触機会を増やし、思いなど情報を聞き取るための努力を続けて頂きたい。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画を作るには本人、家族と十分話し合いを行い、本人の生活歴が反映されるよう配慮している。実践可能なケアプランと具体的な介護内容については本人の意向が取り入れられるようになっている。介護計画は関係者全員の協議内容が反映されている。各人にカンファレンスとアセスメントのシートを作成し、身体・ケア・情緒など詳細に記録している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は3ヶ月に1回見直すとともに、状況の変化に応じて本人、家族、看護師、担当職員との話し合いを行い都度見直しをしている。計画の変更後は記録を残し、変更後の介護が本人の要望に合っているかの検討もしている。各人の介護シートには毎日の健康状態、情緒、自立状況が克明に記録されている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携体制加算事業所であるため、夜間や日常の健康管理に常時看護師が対応している。通院は家族が同行できない場合は職員が協力している。現在、夜間も対応して貰える小川診療所を利用し、往診もしている。眼科と歯科は定期的に受診している。協力医と事業所の連携は密である。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居してから発生した疾病は家族の同意を得て協力医で受診している。かかりつけ医の通院には家族の協力を得ているが、家族の都合が悪い場合が多く、現在は全員が協力医に変わっている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	現在ターミナルケアを受けている方が1名いる。重度化した場合や将来のあり方について、本人、家族、職員、医師と面談しケアプランを立て、行っている。話し合いの結果は確認書として文書に残している。重度化した場合は近くにある同じ法人の「あったかホーム」の紹介をする場合もある。		終末期ケアについては利用者と家族でも思いが違ったり、変わる場合がある。定期的に確認すること、決まった方針は職員全員が共有して介護に当たることを期待する。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	各個人に対応する場合は親しみを込めて平等に声掛けをし、敬語を使い本人のプライドを傷つけないよう注意している。プライバシーに関わる書類は施錠出来る書棚に保管している。個人情報の保護に関しては職員に徹底するための教育を行っている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日常生活は個々のペースに合わせて、のんびりした暮らしが出来るよう、職員は時間的な余裕を持って対応している。趣味の活動も利用者の希望に沿って支援している。身だしなみやおしゃれにも気配りし、本人の好みを大切にしている。理美容院は本人の望む店へ行けるよう努めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	朝食は毎日、日曜日は3食、利用者と職員と一緒に調理している。その他の食事は委託業者から料理されたものが送られて来るので、それを食べている。刻み食やペースト食は各人に対応している。食事は職員も同じものを一緒に頂き、馴染みの食器で食事を楽んでいる。料理の準備などは出来る人達で行なっている。		朝食と日曜日の3食以外は委託業者より支給されているので、今の食費(1日650円)が適切であるかも、今後検討するよう期待する。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日いつでも入浴できるよう準備している。各人に合わせ入浴を勧める言葉を掛けている。着物を汚した場合はいつでも直ぐに入浴し、清潔にしてから着替えている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	料理の下準備、洗濯物の片付け、共有場所の清掃など得意分野で役割を担当している。利用者が希望する過ごし方を、職員と一緒に考え実施している。随時絵を描いたり、職員が弾いてくれるエレクトーンで歌ったりしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩や買物は本人の希望があれば応じている。建物の一階部分にはテラスがあり、そこに出て日向ぼっこをしたり、お茶を飲んだりしているので、散歩を希望する人は少ない。買物の際の支払は出来るだけ本人が行うよう勧めている。		事業所の周囲は坂もあり、道幅も狭く交通量が多いので、家族やボランティアの支援を得て、散策や外出の機会をさらに増やすよう期待したい。
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関は2箇所あるがどちらも日中は鍵を掛けていないため、利用者の行動は絶えず職員全員で見守っている。出入口には、一階の玄関は鈴、二階玄関がチャイムで知らせるようになっている。しかし、二階の戸を開閉したがチャイムは鳴らなかった。		二階のチャイムは早急に修復して頂きたい。
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	火災報知機、消火器、煙・熱警報器は設置してある。避難経路などのマニュアルもあり、災害時の避難訓練は消防署の指導のもと年1回実施している。全員の避難に掛かった時間は20分であった。近所の人に災害時の応援を求めため、事業所の電話には短縮した電話番号が入力されている。		消防署立会いの避難訓練は継続して実施するとともに、地域住民の協力が得られるよう、日頃から地域に対し事業所の理解と啓蒙を図る、地道な努力に期待したい。今年の12月に訓練の予定があるが、地域の協力も呼びかけ是非実施して頂きたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の栄養価は委託業者の管理栄養士と連携をとり作っている。規定の摂取量が摂りにくい人には、お粥にしたりきざみにするなどして対応している。食事の摂取量は個別に管理しているが、水分の摂取量は体調の悪い人のみ確認している。他の人は職員が気を付けている。常時お茶などが飲めるようポットや茶器の設備はある。		水分量の摂取把握についてはより確実にするため、食事以外に定時にお茶を飲む機会を作り、湯飲みの残量で確認するなど、さらなる工夫と努力を期待する。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の場所は適切な広さがあり、空調、換気、遮光、防音などの設備は整っている。廊下や階段など要所には手摺が取り付けられている。居間には利用者やボランティアの方の作品である写真や絵画が飾られ、生活感が味わえる。食堂は床暖房の設備があり、エレベーターを使って一、二階の移動が出来る。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	個室の広さは8畳と広く、馴染みの家具が置かれている。室内は整理整頓されよく清掃されている。シーツや寝巻きなどは洗濯され清潔であった。この部屋で家族が泊まれるようになっている。温度と湿度の調整は利用者の希望に合わせ職員が行ない、快適な温・湿度に保たれている。居室の鍵も掛けられるが施錠の判断は利用者の自由である。		